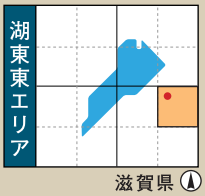
名勝
国指定

胡宮神社社務所庭園

多賀町敏満寺　昭和9年12月28日指定



胡宮神社は、中世に栄えた大寺院、敏満寺と関係の深い神社で、庭のある社務所は、敏満寺の旧坊の福寿院が前身となっています。庭は、江戸時代中期頃の池泉鑑賞式の庭園で、池の水面には木々の緑とともに、敏満寺のたどった数奇な歴史も静かに映し出しています。

当時のできごと	
1199年	源頼朝没
1562年	家康、信長と同盟する
1868年	江戸を東京に改める



庭園全景

敏満寺と胡宮神社

胡宮神社は、聖徳太子の創祀の伝承を持つ古社です。一方敏満寺は、平安時代に伊吹山寺の僧三修（学習シートNo.059）が開基し、中世末まで、坊舎が100余りもある大寺院として栄えました。胡宮神社は、隆盛を極めた敏満寺の守護神として祀られてきたと伝えられます。

鎌倉時代、東大寺再建のための大勧進職となった俊乗坊重源が、建久9年(1198）敏満寺に金銅五輪塔1基を寄進しており、重源が敏満寺を重要視していたことがうかがわれます。近年行われた発掘調査の結果、敏満寺の周辺は、中世の手工業都市のような様相と、強大な軍事力を持った城塞寺院の様相を併せ持つことが明らかとなってきました。

戦国時代、敏満寺は六角氏と浅井氏の抗争に関与し、永禄5年(1562）浅井氏の焼き討ちに遭い寺勢をそがれ、その後、織田信長に抵抗して敗れ、寺勢を回復することなく、現在に至っています。



池と刈込み



水月亭月見台と刈込み

胡宮神社社務所庭園の概要

胡宮神社社務所庭園は、敏満寺の塔頭（たっちゅう）の福寿院の庭として造られました。福寿院はその後、胡宮神社の神宮司となり、さらに、明治維新後胡宮神社の社務所となります。

庭園は、社務所書院の前庭となっています。北東の斜面を利用した池泉鑑賞式の庭園で、山裾のくぼみに池を造り、池の中に二個の天平石と呼ばれる平らな石を配し、その上に水月亭の月見台がのっています。山の斜面にはいく段もの刈り込みと石を配し、庭全体に変化を与えています。庭の景に大きな変化はないものの、周囲の山によく調和した、風情のある、静かで落ち着いた庭です。

関連する文化財

敏満寺遺跡（多賀町）	中世に栄えた寺院跡。東大寺再建にも大きな役割を果たした。寺院を中心とした城塞部分と都市的な空間が復元できる。
敏満寺石仏谷（多賀町）	敏満寺に関連する中世墓群。都市民の墓と考えられる
多賀神社奥書院庭園（多賀町）	学習シートNo.086

もっと深く知りたい

多賀町立博物館・多賀の自然と文化の館 ☎0749-48-2077　犬上郡多賀町四手976-2

多賀町教育委員会 ☎0749-48-8123　犬上郡多賀町多賀240-3

胡宮神社社務所庭園へのアクセス JR琵琶湖線　彦根駅下車
近江鉄道　多賀大社駅



【参考文献】〔滋賀の美 庭〕京都新聞社　〔滋賀県の庭園１～３〕滋賀県教育委員会

滋賀県教育委員会事務局文化財保護課　平成16年3月